



日本の科学の未来

持続可能な開発目標の達成に向けたビジョン



Nature 編集長
Magdalena Skipper

日本は、研究において長い歴史を誇る国です。これまで積み重ねた成果を活かすことで、日本は基礎研究を再活性化し、若手研究者の真の可能性を引き出す機会を備えています。今こそ、日本の科学技術の未来を見据えて、持続可能で公正な社会の構築に注力するときです。人類と地球の未来に関する課題に優先的に取り組むことによって、日本は世界をけん引するモデルとなり、持続可能な開発目標（SDGs = Sustainable Development Goals）の推進において重要な役割を果たすことができます。

持続可能な開発目標を真に達成するには、学术界、企業、政策立案者、および市民社会が協力しながら、世界にとって最重要課題に取り組む必要があります。Nature とその出版社であるシュプリンガー・ネイチャーは、科学的な発見の進展と科学的根拠にもとづく持続可能な研究の普及をするうえで、重要な役割を果たしています。今回、Nature の創刊 150 年をきっかけに、日本を代表する研究者の方々と共に日本の科学に着目するとともに、これから私たちがどのように社会に貢献できるかについて、皆さまと活発な議論を重ねていきたいと思えます。

Nature 創刊 150 周年記念シンポジウム

「日本の科学の未来」

日時：**2019年4月4日** ㊟

開会 13:00 / 閉会 18:00 (予定)

場所：**東京大学 安田講堂**

参加費無料 / 先着順受付



参加お申込みウェブサイト
(定員になり次第受付終了)

go.nature.com/N150Sympo

スピーカー・パネリスト (登壇順)

五神 真
東京大学総長

大隅 良典 [講演あり]
東京工業大学 科学技術創成研究院 名誉教授

柳沢 正史 [講演あり]
筑波大学 WPI-IIIIS 機構長・教授

Magdalena Skipper [講演あり]
Nature 編集長

相田 卓三
東京大学 大学院工学系研究科教授

沖 大幹
東京大学 総長特別参与・
サステナビリティ学連携研究機構教授